

ラ フォレ セ ラ ヴィ ー森こそ命ー



La Forêt, C'est la Vie !



雨季を間近に控え、栽培地へ運ぶための堆肥を家族総出で荷車に積み込んでいる。

アフリカの農業に向けて

大阪で万博が開かれた頃、「大きいことはいいことだ」というCMが流れ、ジャンボジェットが間もなく就航し、規模拡大こそが経済発展と豊かな生活をもたらすと信じられていました。農業でも同様で、アメリカ式の大規模農場経営こそ農業生産を発展させ、農民と国民を豊かにすると政府も研究者も論じていました。しかし、実はアメリカの農家のほとんどは今でも中小規模の家族経営農家です。

近年、様々な研究が、中小の家族経営農家のほうが企業的な大規模経営農家よりもきめ細かい経営ができるため効率がよく、サステナブルであることを明らかにしています。大規模農家では、労力を節約するために個々の畑の土地条件を無視して大量の農薬と肥料、水を撒かなくてはならず、無駄が多い上に環境を破壊してしまうのです。

しかし、いまだに「規模の経済」は信奉されています。もちろん、規模が大きいほうが効率的な場合もあります。しかし農業に関しては、必ずしも規模拡大は効率にも発展にも結びつきません。私がかつて調査したフランスの農村でも、むしろ規模の小さい農家や協同組合のほうが効率的でした。規模拡大で利益を得るのは、農業機械や農薬、肥料などのメーカーです。

質の良い安全な農産物を作るには、手間をかけやすい中小規模の家族経営農家のほうが、効率が良いのです。アフリカの農業でも、こうした家族を大事にした農業が注目されています。アフリカが安全で質のいい農産物の産地として、広く認知される日がいずれ来て欲しいですね。

埼玉大学 教養学部
三浦 敦



成績発表会(小学校緑化支援活動)

2009 年の小学校緑化支援活動は、10 校を対象に行ない、610 本の苗木が植えられました。また各校では、水やりや家畜の食害防止対策などの管理作業に、児童や教員、保護者が協力して取り組みました。

今年 6 月、環境局や教育局の職員と共に全校を視察し、植林・後管理作業が適切に行なわれていたか、参加者が意欲的に取り組んでいたか、などについて評価しました。いずれの小学校も意欲的に取り組んでいたことが分かりましたが、最も評価が高かったカンルゴ小学校では、「どうすれば木の根元に雨水がたまりやすくなるか」について工夫をしたり、家畜が植林サイトに入らないように村全体に協力を呼び掛けたりしていたことが明らかになりました。このような努力が実り、木々はぐんぐん成長し、高いもので 2m 以上に達していました。



優勝したカンルゴ小学校の木々は高さ 2m にまで成長しました。

6 月 12 日に開催された成績発表会には、教育局の県局長や地区局長、10 校の児童代表や教員、保護者が出席しました。県局長から校庭緑化に取り組んだ各校に対して健闘を称える賛辞が述べられ、表彰状が渡されるたびに出席者全員から大きな拍手が起こりました。「緑のサヘル」を代表して出席した岡本が、この小学校緑化支援活動を支援してくれている下橋中学校からのメッセージを読み上げると、盛大な拍手と感謝の言葉が述べられました。また、同校のご支援により用意されたス Copp とつるはしを、賞品として全校に贈りました。

小学校に対する給水タンク支援活動

ブルキナファソの小学校には水道や井戸があり、飲み水や手洗い、掃除等の水源として利用されています。しかし、ほとんどの小学校には 1 ヶ所の水源しか設置されていないため、水道や井戸に多くの児童が集まると水を汲むまでに長い時間待つことになり、場合によっては利用できないこともよくあります。



ノンゲンピロット小学校に設置された給水タンクで手を洗う児童。

このような利用上の不便を改善するため、今年の 4 月、首都ワガドゥグにあるウィディ小学校、ノンゲンピロット小学校、ソンゴナビテンガ小学校に対して、給水タンクを各教室に設置しました。これは 20L の水が入るセメント製の水がめに蛇口が取り付けられているもので、レストランなどで手洗器として利用されています。このタンクにあらかじめ水を溜めておくことによって、生徒がうがいや手洗い、教室の清掃など、使いたいときに利用することが出来るようになりました。また同時に、学校内の衛生状況の改善を促すため、バケツやタライ、石鹸などの備品を供与しました。



JICA 草の根技術協力事業(ザイ、養蜂、家畜肥育グループ)

今年、ブルキナファソでは、例年と比べると降雨が早めだったように思います。首都ワガドゥグでは、5月から降り始めました。6月には頻繁に降るようになり、激しく降る日も多くなりました。ところが「緑のサヘル」が事業を行なっているコングシ地域では、5月に1度だけ降りましたが、その後1ヶ月以上降雨がありませんでした。「今年は降雨不足になるかもしれない」と危惧しましたが、住民の方々によると例年と変わり無く、本格的な雨季を迎えるのは7月からとのことでした。

昨年7月から開始したJICA草の根技術協力事業では、現在「流亡防止」、「地力回復」、「養蜂」の3グループが活動を行なっています。また、6月から、「家畜肥育」グループが活動を開始しました。

<地力回復グループ>

ロルガ村とタンギエマ村で、共有地や個人の栽培地において、穀物栽培にむけた「ザイ」の準備が進められました。

「ザイ」に使用するために、両村で作製された堆肥は約60t（荷車で約400台分、1台=150kg）になりました。

両村では、最適な播種のタイミングを逃さないようにと、家族総出で栽培地の準備作業が進められています。ディグット設置と堆肥の作製によりモチベーションが上がっており、「今年は良い収穫が期待できる」と活気に満ちています。



家族みんなでザイの準備をしています。



左が巣板付、右が通常の蜂蜜。

<養蜂グループ>

ロルガ村では、液体状の蜂蜜を15リットルと巣板付の蜂蜜をインスタントコーヒーの空き缶に24缶採取することができ(5/15)、全量が販売されました。収益は34,500cfaでした。また、新たに6箱の養蜂箱が設置されました。タンギエマ村では、液体状の蜂蜜を17.5リットル、巣板付の蜂蜜をインスタントコーヒーの空き缶に9缶採取することができ(5/12)ました。全量が販売され、収益は33,250cfaでした。

まだまだ微々たる収益しか出ていませんが、近隣村の住民を中心に着実に売れているので、これから伸びていくと思います。なお、販売単価は、1リットル瓶で1,500cfa、インスタントコーヒー小型缶(50g)で600cfa、インスタントコーヒー大型缶(100g)で1,250cfaと設定されています。

<家畜肥育グループ>

タンギエマ村で、家畜肥育グループによる羊の肥育販売活動が開始され、子羊購入資金を提供しました。これから1年かけて大きく育て、販売することになっています。通常、ヤギや羊といった小型家畜は女性が管理していることを考慮し、このグループは10名の女性で組織されています。女性たちの生き生きとした顔が印象的でした。

タンザニアから



難民キャンプ周辺荒廃森林等保全・復旧事業

2006 年から始まった本事業も、いよいよ最終年度を迎えました。この事業は、タンザニアを始めとするアフリカ・中近東地域の 4 カ国において、難民キャンプ設営後に生じた周辺地域の環境的な荒廃に対処するための方法を策定することを目的にしており、林野庁の委託により国際緑化推進センター（JIFPRO）と協力して行なっています。



2007 年に植栽されたアカシア・フラグランス

本事業の実施地であるムグンズ村は、タンザニアの北西部キゴマ州キボンド県に位置し、ブルンジとの国境に面しています。この地域には、流入したブルンジ難民をキャンプに受け入れる前、一時的に滞在してもらうための中継所が設置されていました。難民たちのキャンプへの移動が完了した後、中継所は閉鎖されましたが、一時的とはいえ地域環境にかかった負荷は甚大であり、自然の回復力だけでは修復出来ないほどの状態になっていました。

本事業では、住民が日常生活を送る中で無理なく植林した苗木の管理ができるように、林間で農作物を栽培しながら木を育てる「アグロフォレストリー手法」を取り入れた植林を実施しています。2007 年と 2008 年には、15ha の土地に 6 樹種計 13,000 本の苗木が植林され、今年度は、2009 年と併せて 20ha に植林が行なわれる予定になっています。この植林地区は、事業終了後も村の環境委員会や現地 NGO によって管理される予定です。また、改良かまどの普及や学校での環境教育活動などを通して、住民たちの自然環境に対する意識の向上も図っています。

チャドから

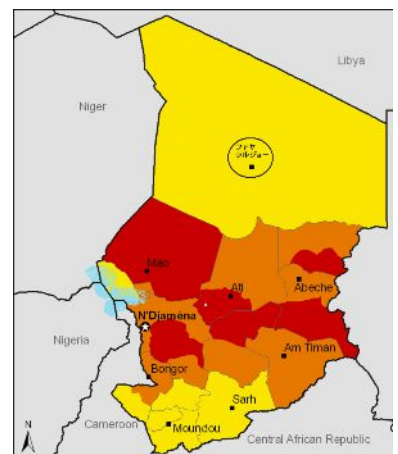


チャドの北部で水害による甚大な被害が発生しました

7 月 31 日、チャド北部のファヤ・ラルジョーで、40 年来無かったといわれるほどの豪雨がありました。「滝のような」と表現されるほどの降り方で、およそ 1,800 名の住民が被災し、地方行政の中枢もほとんどが機能停止になりました。

この水害により、ファヤ・ラルジョーでは 20%の住民が、備蓄していた食料や換金作物を失ってしまいました。8 月 4 日、チャドの首相は「避難所の設置」と「食料や医薬品の確保」に関して、世界的な支援を呼びかけました。一方でチャド政府の対応は早く、すでに 10 億 CFA を投入し、食料やシート、医薬品の購入を始めています。

今年はサヘル地域全域で激しい降雨が見られます。穀物の成長を促す恵みの雨が、降り方しだいでは一転して災害となり、食料を奪い去ることになりかねません。栽培を始めたばかりの穀物が収穫できるまでには、まだ 3 ヶ月ほどかかります。被災された住民の状態が、一刻も早く改善されることを願っています。



FEWSNETによる9月までの食料確保の見込み。

国内活動



今期は、毎年恒例となっている「アフリカン・フェスタ」が開催されました。昨年に引き続いて横浜での開催となり、昨年を上回る人出となりました。また、修学旅行のシーズンということで、北陸や中部、近畿の各地方から、中学生の皆さんが事務局を訪れてくれました。

< 東京事務局での主な活動一覧 >

2010 年

5 月	11 日(火)	チャリティ☆ナイト 「動物カメラマンに聞く南部アフリカの動物たち」	共催	
	20 日(木)	京都府舞鶴市立若浦中学校 事務所訪問 (3 年生 6 名)	講義	(菅川)
	27 日(木)	愛知県常滑市立鬼崎中学校 事務所訪問 (3 年生 5 名)	講義	(菅川)
6 月	4 日(金)	愛知県知多市立知多中学校 事務所訪問 (3 年生 5 名)	講義	(菅川)
	8 日(火)	チャリティ☆ナイト 「サッカーとアフリカ」	共催	
	12 日(土)	アフリカン・フェスタ (横浜・赤レンガ倉庫：～13 日)	出展	
7 月	1 日(木)	石川県金沢市立高岡中学校 事務所訪問 (3 年生 6 名)	講義	(菅川)
	6 日(火)	海外派遣技術者国内研修 (農林水産省)	講師	(菅川)
	13 日(火)	チャリティ☆ナイト 「アフリカでなぜ野球？」	共催	

アフリカン・フェスタ2010

6 月 12 日（土）・13 日（日）、横浜の赤レンガ倉庫イベント広場にて、「アフリカン・フェスタ 2010」（主催：外務省）が開催されました。「緑のサヘル」も参加し、現地の状況や活動の紹介、パネル展示や民芸品の販売を行ないました。

「アフリカン・フェスタ」は生活や文化の紹介、音楽イベント等を通じて、国民に幅広くアフリカを紹介し、アフリカに対する理解を深めることを目的としており、今年が 12 年目となります。

両日とも真夏を思わせる暑さとなりましたが、21 万人を越える人出となり、「緑のサヘル」のブースも、多くのお客さんで賑わいました。



12 年目になる今年のテーマは「とびだせ、アフリカ!!」。21 万を越える来客で賑わいました。



緑のサヘルのブースにも、たくさんのお客さんが来てくれました。スタッフも大忙しでした。



チャリティ・コンサート開催!

去る6月13日(日)、毎年恒例となっているチャリティ・コンサートが、大阪府池田市民文化会館にて開催されました。

今年は、ピアノ界のスーパーレディ・国府弘子さんと、ソプラノ歌手、オペラ女優としてご活躍の塩田美奈子さんによる「ドラマティックコンサート」で、お二人の絶妙な掛け合いによる和やかな雰囲気と笑いの中、オペラ、クラシック、日本の唱歌などが次々に披露され、本当に楽しいひと時となりました。



お二人の息の合った歌と演奏に、会場はうっとり。



コンサート終了後は皆で記念撮影。

また、お二人ともアフリカの様子や「緑のサヘル」に何度も触れて下さり、当初のプログラムを急遽変更してアフリカの歌も歌って下さる等、私どもにとっても、とても嬉しいコンサートになりました。

尚、このコンサートは「(財) いけだ市民文化振興財団」、「アフリカの砂漠で木を植えている日本青年を支援する会」、「中西クリニック」の主催、「池田市」、「池田市教育委員会」、「池田市公益活動促進協議会」の後援で開催され、その収益から100万円が当日の一般募金90,739円と併せて「緑のサヘル」に寄付されました。

国府さん、塩田さん、関係者の皆さん、お集まり下さった皆さん、本当にありがとうございました。

～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．

世界食料デー月間 2010 「食料問題を考えるシリーズ みんなで食べる幸せを」

現在、世界中で食べることに苦しんでいる方々は10億人を越えています。10月16日は国連によって「世界食料デー」として定められており、「緑のサヘル」は協力関係のあるNGO/NPOや国際機関と共に、イベントに参加しています。

今年は7月から10月までを「世界食料デー月間」とし、「食料問題を考えるシリーズ」として8団体による連続セミナー／ワークショップを開くことになりました。このシリーズを通じて、世界が抱える食料問題と日本に暮らす私たちとの関係性を考え、世界10億人が直面する飢餓・食料問題の解決の糸口を探ります。セミナーの情報はインターネットに掲載されていますので、ぜひ、アクセスして見てください。

「世界食料デー月間 2010」のホームページは、こちら ⇒ <http://www.worldfoodday-japan.net/>

～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．

ありがとうございました

* 敬称は略させて頂きました。

【 新規会員のみなさま 】

寝屋川市立梅が丘小学校

【 継続会員のみなさま 】

鈴木寿一／石崎さかえ／河村ミヨ子／和田浩／手嶋千恵子／向後元彦／佐賀明子
滝川なおみ／清水好美／浅輪重信／須藤さい／佐藤京子／町千恵子／永井邦子／柏原竜一／石川祐一
亘友子／小川あい子／太田弘子／野口鉄雄／菊地博子／内藤秀誠・小田桐真子／高松千枝子
菊山ひじり／岡本美智子／こじまこどもクリニック／（特活）アーユス仏教国際協力ネットワーク

他 匿名をご希望の方 1名

【 ご寄付を頂きました 】

小林伸張／加藤正博／石崎さかえ／石塚由紀子／村上和代／榎本みつ枝／坂本重夫／山田規矩子
井上登志子／大枝純／免取雅子／黒河内康／桜井裕美世／武知ハルミ／小池昌子／丹邦子
田中京子／山根二郎／岸岡成佳／原田宙明／個別教育フォレスト／鈴木潤／入江成子
西村豊子／坪居壽美子／小川あい子／太田弘子／大内順子／佐貫眞木子／迫田ひとみ
赤山孝子／帯瀬憲五／梅田暢子／瀬戸進一／門村浩／大久保久美子
愛知県舞鶴市立若浦中学校／サン・マイクロシステムズ株式会社

他 匿名をご希望の方 3名

【 ハガキ・切手などを頂きました 】

福田典子／小林よしみ／愛知県知多市立知多中学校／田中順子・礼二／2－6 谷田

上記は 2010 年 5 月 1 日から 2010 年 8 月 15 日までにご支援頂いた方、また、それ以前にご支援頂き、お名前を掲載できなかった方のご芳名であり、2010 年 8 月 16 日以降にご支援下さいました方については、次号の掲載とさせて頂きました。また、ご芳名の掲載につきましては、お名前の公開を承諾された方のみを掲載させて頂いています。あらかじめご了承下さい。

【 協力団体・助成団体 】

(財)毎日新聞東京社会事業団／サヘル緑化ファンド(管理団体：(財)大阪国際交流センター)
(独)国際協力機構(JICA)／(財)イオン環境財団(環境活動助成)／グリムス(gremz)
(財)国際緑化推進センター／(財)農村更生協会 八ヶ岳中央農業実践大学校
アフロ・フレンチレストラン 神楽坂トライブス／(特活)国際協力 NGO センター／
(特活)環境アリーナ研究機構／(特活)ハンガー・フリー・ワールド



おしらせ

「緑のサヘル」は
「なんとかしなきゃ!プロジェクト」に参加します。



「なんとかしなきゃ!プロジェクト」は
まず世界の今を知り、あなたと世界がつながっていることを理解し、
あなたにできる国際協力を見つけていただくための活動です。

開発途上国が抱えている課題や、国際協力の必要性を社会全体で共有するために、ウェブサイトを中心に広く情報を発信していくのが「なんとかしなきゃ!プロジェクト」です。

国際協力を実施する団体のほか、国際協力に関心のある著名人・有識者がそれぞれの経験やメッセージを発信します。

「なんとかしなきゃ!プロジェクト」についての詳しい情報は、以下の URL からご覧になれます。

<http://nantokashinakya.jp/>

【 もくじ 】

- | | |
|---------------|---------|
| 1…表紙 | 5…国内活動 |
| 2…ブルキナファソから1 | 6…事務局より |
| 3…ブルキナファソから2 | 7…ありがとう |
| 4…タンザニア・チャドから | 8…お知らせ |

< スタッフのひと言 >

●帰国してからずっと暑い日が続いているので、現地駐在が継続しているような気分です。(岡本) ●ブルキナに来ています。信じられないことに、雨季のブルキナは日本よりはるかに涼しいです。(菅川) ●年に一度のプロレス観戦に行きました。プロレスファンならではの一体感が良かったです。(町) ●今年の夏は、虫に刺されることが少なかったので快適に過ごせました。(鈴木) ●ブルキナファソ事務所を移転しました。近所の鶏がよく遊びに来ます。(木藤) ●初めてのブルキナです。雨季のドシャ降りをムービーに撮りました。(小川)

ご贈答品・ご挨拶に
どうぞ

ハケ岳農場の特産品

ハケ岳中央農業実践大学校の特産品がさらに充実しました。これまでの手作りチーズとアイスクリームに加えて、チーズケーキ、カレー、ソーセージなど、ハケ岳の新鮮な材料と確かな技術から生まれた品々が勢揃いの10セットです。各地への送料を含めた価格は下記の表のとおりです。

大学校のご厚意により、お求めごとに定価の20%が当会に寄付されます。

【お申し込み方法】

郵便振替用紙に、ご依頼人様とお届け先様のご住所、氏名、電話番号、ご希望セット名と数量をご明記の上、下記までお振込みください。

00140-9-50425「緑のサヘル」

お振り込みから到着まで10日程かかります。

		関東 北陸 東北	信越 中部 北東北	関西 北東北	中国	四国	北海道 九州	沖縄
A	アイス10個	3,800	3,900	4,010	4,110	4,210	4,420	
B	アイス20個	6,400	6,500	6,610	6,710	6,810	7,020	
C	チーズ	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	
D	アイス / ケーキ2種	3,800	3,900	4,010	4,110	4,210	4,420	
E	ムース	4,930	5,030	5,140	5,240	5,340	5,550	
F	ケーキ	4,930	5,030	5,140	5,240	5,340	5,550	
G	カレー / チーズ	5,000	5,100	5,210	5,310	5,410	5,620	
H	ケーキ2種	3,230	3,330	3,440	3,540	3,640	3,850	
I	カレー	3,580	3,680	3,790	3,890	3,990	4,200	
J	チーズ / ソーセージ	5,730	5,830	5,940	6,040	6,140	6,350	

内容の詳細をご希望の方は、事務局まで
ご連絡ください。詳細チラシをお送りいたします。

La Forêt, C'est la Vie !

Vol. 43

編集 岡本敏樹 町慶彦 鈴木香織 小川桂/発行 菅川拓也/印刷 社会福祉法人東京コロニー

発行所 緑のサヘル ホームページ: <http://sahelgreen.org/> E-mail: agsj_tokyo@sahelgreen.org

〒101-0035 東京都千代田区神田紺屋町16番地 田澤三ビル3F TEL:03-3252-1040 / FAX:03-3252-1041